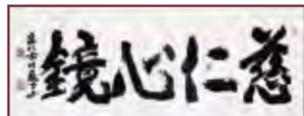




関西医科大学 広報

Kansai Medical University Public Relations



建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

魅力ある医学教育、活力ある研究システムを再構築



本学の将来見据えた礎計画



2ページに関係記事

附属枚方病院の隣接地に平成25年1月竣工、4月移転統合予定の枚方学舎。
(写真は、外観パース)

C O N T E N T S

法人	2	学事	8
枚方キャンパス統合移転整備事業	2	病院	10
就任の挨拶	3	卒後臨床研修センター	13
長期資金収支計画	4	附属看護専門学校	13
大学	6	大学情報センター	14
教養部探訪	7	キャンパス・ニュース	15

法人

中庭空間に空中回廊、屋上にはソーラー

枚方キャンパス統合移転整備事業について

施設整備企画室室長
(副学長)

澤田 敏



関西医科大学は分散している牧野・滝井学舎を統合し、「エコ&グリーン」を基本コンセプトとして平成25年4月、附属枚方病院の隣接地で生まれ変わります。

この計画は平成11年10月に制定された本学の大綱方針に則り、魅力のある医学教育、活力のある研究システムの再構築を実現するもので、同時に、法人を含む大学運営の集中化と効率化も目指します。換言すれば100年・200年先の関西医科大学の姿を見据えた飛躍のための礎計画であると言えます。

以下に現時点での具体的な計画内容を記します。

(1) エコ&グリーン学舎

新学舎は2万5,000㎡の敷地に、延べ床面積が4万㎡(1,000㎡の予備スペースを含む)で建設されます。なお、この計画は大学の発展に伴って必要となる将来の増築スペースを学舎と連結して増築可能とするものです。学舎は3棟から構成され、3階建ての低層棟(一部4階)、8階建ての中層棟、13階建ての高層棟が「コの字」状に配置され、大きな中庭空間を有するものです。北東の淀川方向に広がった中庭空間に架けられた空中回廊は、正面から見て左右にある低層棟と中層棟を「口の字」状に結び、学生・教職員の導線に配慮し、また、隣接の附属枚方病院とは3階のスカイウェイでつながります。

学舎の正面玄関前の空間には木々が植えられ、学生たちは木立の間を縫って正面玄関にたどりつき、また、北側の天野川よりの敷地内には「学園の森」が配置されます。一辺が51mで、芝生を敷き詰めた中庭は、学舎の3面で外廊下とつながり中庭の自由空間をいつでも、どこからでも享受できるようになっています。その上、中庭から連続して広



中庭イメージ

がる淀川よりの敷地内にはテニスコートや屋外活動のスペースが確保されています。

屋内のエコ&グリーンは、学生食堂から屋内螺旋階段を通過して、屋上のカフェテリアに上がると、そこには屋上庭園が広がり、この屋上庭園ではベンチに座って談笑するのもし、また、草花を觀賞し、育てるのもし、この空間を憩いの場として活用することが期待されます。この屋上庭園はもう一カ所、別に図書館横にも設けられています。その他、中層棟の屋上部分には可能な限りソーラーパネルを配置して環境に配慮するとともに、附属病院からの景観を損なわないように工夫された基本設計となっています。街灯にも電力の供給元としてソーラーパネルが使われています。

(2) 教育環境

1階には300人収容の大講堂(ロールバックチェアで体育館兼用)を始め、1回生、2回生の講義室や実習室、CBTにも対応可能な試験専用の教室や学務関係の事務室を配置し、2階には3回生から4回生の講義と実習室、教養学科目の居室・研究室、セミナー室を配置しています。

正面玄関イメージ



法人

学部学生は基本的には1階と2階(一部3階)で講義と実習が完結し、この1、2階は回遊性が保たれ、教室間の移動に配慮された設計となっています。病院へつながる学舎のメインストリートは3階部分であり、この階には学生食堂と図書館およびチュートリアル室が配置されています。この学生食堂はビュッフェスタイルで学生の嗜好と選択性に配慮したハイグレードなものを考えており、乞うご期待といったところですが。また、図書館は蔵書数や書庫の大きさを競うことなく、時代の変革にマッチしたIT化を進め、個室で学習できる快適性を重視したいと考えています。4階には少人数でグループ学習が行える専用の小さな自習室を25室、さらには各種会議室やカフェテリアも配置されます。

なお、当初考えられていた附属看護専門学校の枚方への移設については看護師の教育環境などを再検討した結果、「関西医大の心のふるさと」とも言うべき牧野校地への移転が決定しました。その具体的な看護専門学校の移転計画については当初の計画通り、この委員会で検討することになります。

(3) 研究環境

学術研究活動において必要なことは、セキュリティを保ちつつ24時間稼働の研究体制の確立です。このため、随所に工夫を凝らすことになります。臨床医学系講座の居室は5階から7階に設置され、大学籍(病院助教は附属枚

方病院の総合医局を利用)の助教以上が附属枚方病院の大医局から移動します。この居室は快適性と機能性を配慮し、過去に割り当てられた居室面積より大きな各室150㎡を確保します。しかし、8階・9階に設けられた臨床系講座の研究室は現時点より狭くなります。その代わりに、効率的な研究を可能とする320㎡の臨床系共同総合研究施設の設置を検討しています。

基礎系講座の居室と研究室は10階から12階に設けられ、居室としては50㎡、研究室は180㎡位を考えています。その他、総合研究室は現状の2倍である1,700㎡の面積を確保し、動物実験センターは現状の約1.5倍の1,970㎡の面積を考えています。

(4) 法人管理部門

13階には理事長・学長室、役員室、会議室などからなる法人部門を設けます。また、可能であれば同窓会関係の居室や事務局も同居できればと考えています。

(5) 今後の予定

現時点では施設整備企画室が中心となり、学舎のアウトラインである基本計画の具体策を検討中であり、この作業は本年12月を目処に終了し、その後は基本設計に入るため、各委員会や作業部会にご意見をお伺いすることになると思います。ご協力のほど重ねてお願いいたします。

就 任 の 挨 拶

円滑なコミュニケーション取れる医師を養成

教養部心理学教室教授 西垣 悦代

9月1日付けで教養部心理学教室に着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。緑豊かな牧野キャンパスの昭和初期建造の本館から、蔭の絡まる窓越しにヒマラヤ杉を眺めていますと、本学の長い伝統の重みが伝わってくるようで気持ちが引き締まる思いです。前任校の和歌山県立医科大学では約13年間、医学部の1・2年生を対象に心理学、心理学実習、医療行動科学などを担当していました。研究テーマとしては、先端医療に対する社会的受容過程に関する社会心理学的な調査、健康増進行動を促進する説得的コミュニケーションと認知行動療法への応用、医療者-患者間の信頼形成とコミュニケーションの分析などに取り組んできました。また、学外の研究者と共にヘルスコミュニケーションや臨床倫理コンサルテーションの実践も行っています。本学におきましてもこれらの経験を生かしつつ、さらに発展させるべく教育と研究に取り組んでいく所存です。

医学部の教養教育は1年という短い期間ですが、その間に学生たちは受験生から医学生へと知的にも精神的にも大きく成長を遂げます。初期教育としての教養教育はその後の専門教育の土台を作る意味でも大変重要な責任を負っていると感じています。数年後には枚方キャンパス

への統合移転が計画されていると伺っておりますので、これまで以上に専門課程との緊密な連携が必要になるかと思えます。専門的な知識や技能と共に、慈しみの心を持って患者の行動や心理を理解し、円滑なコミュニケーションを取れる医師の養成に、微力ながら心理学の立場からお手伝いしていきたいと思っております。学内各方面の皆様方のご鞭撻を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

略 歴

年次	月	職名
昭和57年	3月	国際基督教大学大学院博士前期課程修了(教育学修士)
昭和57年	4月	北陸学院短期大学(現北陸学院大学)助手
昭和58年	4月	同大学専任講師
平成 4年	6月	米国ハーバード大学教育学大学院修了(CAS取得)
平成 8年	9月	大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程退学
平成 8年	10月	和歌山県立医科大学教養部専任講師
平成13年	4月	同大学医学部教養・医学教育大講座(心理学)助教
平成19年	3月	神戸大学大学院総合人間科学研究科博士後期課程修了(博士学術)
平成21年	9月	関西医科大学教養部教授

法人

長期資金収支計画の改訂について

財務担当理事・経営企画室長 岩坂 壽二

このたび長期資金収支計画を改訂し、財団法人大学基準協会に提出しましたので、その概要をお知らせします。この長期資金収支計画は本学の中長期計画「アクション 2015」を数字にしたもので、毎年の実績に基づいて修正を加えつつ改訂することになっています。

まず、附属病院の収支計画については、枚方病院は帰属収支比率（ $[\text{帰属収入} - \text{消費支出}] \div \text{帰属収入}$ ）が平成24年度（2012年度）まで中期目標の7.5%に向かって改善すること、滝井病院は平成22年度（2010年度）の500床体制への移行を機に病床の再編成により健全な経営基盤を確立すること、香里病院は初年度から収支黒字を見込むことを織り込んでいます。

次に、新学舎建設プロジェクトについては、平成24年度（2012年度）の竣工、移転を前提に、建設資金の支払いのための積極的な積み立てを行い、募金、補助金等により必要資金を調達する計画です。

さらに、滝井病院改修プロジェクトについては、平成27年度（2015年度）を目処に準備を進めることにしています。

この結果、帰属収支差額は、平成22年度（2010年度）には香里病院の補助金収入により一時的に跳ね上がりますが、平成23年度（2011年度）以降は中期的に安定した水準で推移すると見込んでいます。この計画通りに運べば、本学は平成27年度（2015年度）には新学舎を有し、滝井病院の改修も終えて、過去の借入依存体質から脱却し

て、帰属収支黒字の隆々たる大学に生まれ変わっていることとなります。

ただし、①全体的な経費運用規律が緩んだり、②滝井病院の構造改善が進まず収支赤字が拡大したり、③香里病院が赤字となったり、④枚方病院の収支改善が進まなかったり後退したりしますと、これが絵に描いた餅に終わることは言うまでもありません。

本計画は現時点における高いけれども十分手の届くところにある本学の将来像、理想、目標です。不要不急を常に考え、是非力を合わせて行きましょう。



長期資金収支計画

(単位 百万円)

		2008年度 実績	2009年度 計画	2010年度 計画	2011年度 計画	2012年度 計画	2013年度 計画	2014年度 計画	2015年度 計画
帰属収入	学生納付金	3,295	3,414	3,462	3,510	3,558	3,606	3,654	3,654
	寄付金・補助金	2,611	2,738	5,759	2,738	2,738	3,838	2,738	2,738
	医療収入	36,790	34,754	36,384	38,185	38,500	38,523	38,591	38,619
	その他	2,132	3,048	1,372	1,148	1,155	2,017	1,505	1,155
	帰属収入計(a)	44,828	43,954	46,977	45,581	45,951	47,984	46,488	46,166
消費支出	人件費	20,693	20,808	20,808	20,872	20,860	20,836	20,805	20,787
	教育研究管理経費	7,789	7,447	7,884	7,815	7,815	7,748	7,796	7,765
	医療経費	10,523	9,780	10,203	10,607	10,656	10,664	10,686	10,694
	その他	5,127	4,507	4,665	4,996	5,037	5,733	4,578	4,634
	消費支出計(b)	44,132	42,542	43,560	44,290	44,368	44,981	43,865	43,880
帰属収支差額(a-b)		696	1,412	3,417	1,291	1,583	3,003	2,623	2,286
帰属収支比率(a-b)÷a		1.6%	3.2%	7.3%	2.8%	3.4%	6.3%	5.6%	5.0%

(注) 帰属収支差額のみ抜粋。帰属収支比率は帰属収支差額の帰属収入に対する比率で、この比率が大きいほど自己資金が充実する。

法人

寄付金は税制上の 優遇措置の対象になります

寄付者が個人の場合

本学に対する寄付は、税制上の優遇措置(寄付金控除)の対象とされており、次の算出額がその年の課税対象所得から控除されます。

寄付金額 (年間所得額の 40%が限度)	-	5,000円	=	寄付金控除額
----------------------------	---	--------	---	--------

◎今年ご寄付をいただきました方

来年の確定申告期間に、本学から送付致しました①寄付金受領書、②特定公益増進法人証明書(写)を確定申告書類に添付して所得税還付の手続きを行なって下さい。

◎ご寄付をお考えいただいている方

今年の所得で寄付金控除を受けられたい場合は、今年12月末までにご寄付をいただきますようご検討をお願い

寄付金

施設設備整備拡充事業資金へご寄付いただきました方々のご芳名を掲載して感謝の意を表します。(平成21年7～9月分)

〈個人〉
市川 良之 様 前田 慶子 様
木村 智子 様

〈法人〉
ケーエムユーシステム株式会社 様

します。

※法人でのご寄付にも税金優遇措置があります。受配者指定寄付金制度を利用すれば、**寄付金全額が損金に算入**されます。

※詳しくは、関西医科大学募金室(TEL06-6993-9556)までお問い合わせ下さい。

ホームページURL <http://www2.kmu.ac.jp/bokin/>

本学の43回生、土田氏が国政の場へ 厚生労働行政の根本的改革を



10月の参議院静岡選挙区補欠選挙で関西医科大学出身の土田博和氏が初当選、国政の場で医師の経歴を活かしご活躍されます。土田氏から学生時代の思い出、国政への抱負についてコメントを寄せていただきました。

関西医科大学で毎日がんばっている皆様、及び全国で大活躍されている諸先生の皆様、今回はいろいろ報道等でお騒がせしました。

私43回生、学生時代、昼は野球、夜はマージャン生活と思いっきり楽しい学生生活を送ることができました。

勤務医及び開業医生活30年の中で、その場しのぎで大局観のない医療制度に対し、本を出したり雑誌に投稿したりで声をあげてきましたが、なかなか医療現場の声が届かず、政治に挑んだ結果です。(2年前には無謀にも無所属で国政にトライしましたが、もちろん離陸前に終わりましたが…)

現在の猫の目以上にコロコロ変わる厚生労働行政を、医療法及び健康保険法のレベルから根本的に変えることによって、医療を受ける国民及び提供する病院サイドがお互いが納得できるシステムを構築したいと考えています。本年10月に還暦を迎えましたが、人生の二毛作として新たな人生を力の限りで頑張ってみますので、皆様のご支援ご鞭撻を衷心よりお願い申し上げます。

医療法人社団理事長・医師・社会福祉法人理事長
関西医科大学卒業(43回生)

内部監査室

平成21年度(前期)の内部監査結果

1.平成21年度(前期)の内部監査

学部と附属枚方・滝井両病院を対象に経理関係の内部監査を実施しました。全部署を対象に近々の経理規則改定に係る「減価償却」と「リース・ソフトウェアの取り扱い」を、さらに学部については「科学研究補助金等に係る内部監査」を、附属枚方・滝井両病院では診療報酬請求に係る「レセプト管理」を監査項目としました。

監査の結果、「減価償却」と「リース・ソフトウェアの取り扱い」は新しい方針に添って処理され、規則整備も進

内部監査室長 稲垣千代子

められていることが分りました。その他の項目では重大な法令・規則違反はなかったものの、業務効率化のため、(1)「科学研究補助金等に係る内部監査」の調書指摘事項の活用・広報(2)保留・返戻・査定減点レセプトの問題点解析と改善(3)固定資産台帳の細部整備と定期的現物実査、等を中心に業務改善提案を行いました。

2.平成20年度内部監査の追跡調査

平成20年度の内部監査で指摘した項目について、その後の改善状況を把握または支援するための調査を開始しました。

大 学

大阪医大の竹中
学長(右)とが
つちり握手
する山下学長



平成21年度文科省「大学教育充実のための 戦略的大学連携支援プログラム」採択2件 大阪医大、立命館大と契約締結

平成21年度文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に2件のプログラムが採択されたことは前号(「関西医科大学 広報」Vol.6)でお知らせしましたが、9月9日(水)午前11時からホテルグランビア大阪で本学の山下敏夫学長、大阪医科大学の竹中洋学長の間で共同事業契約書の調印式が行われ、また立命館大学とのプログラム共同実施に関する協定は9月24日付で締結されました。

<大阪医科大学との連携>

「淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラム」

<立命館大学との連携>

「理工医薬融合型ライフサイエンス高度専門教育システムの創成」

木梨教授の研究、平成21年度CRESTに採択 「接着制御シグナルの破綻と自己免疫疾患」

平成21年度(独)科学技術振興機構・戦略的創造研究推進事業CREST(公的研究費・競争的資金)に本学附属生命医学研究所分子遺伝学部門・木梨達雄教授の研究課題が新規採択されました。研究領域は「アレルギー疾患・自己免疫疾患などの発症機構と治療技術」、研究課題名「接着制御シグナルの破綻と自己免疫疾患」です。

この研究領域は、アレルギー疾患や自己免疫疾患を中心とするヒトの免疫疾患を予防・診断・治療することを目的に、免疫システムを適正に機能させる基盤技術の構築を目指す研究を対象としています。

研究課題の概要:免疫細胞の全身性の移動制御は、異

大阪歯科大学と「学术交流に関する 包括協定」締結式行われる

相互に連携して学术交流を促進させることにより、研究・教育内容の充実と学術・文化の発展および科学技術の高度化を図る。8月19日(水)午後6時30分からリーガロイヤルホテル大阪において本学と大阪歯科大学の「学术交流に関する包括協定書」の締結式が行われました。

式では、本学の山下敏夫学長と大阪歯科大学の川添堯彬学長(理事長)が協定書に調印、今後、さらなる両大学の活発な学术交流を誓い合いました。本学からは、塚原勇理事長、伊藤誠二・澤田敏両副学長、大阪歯科大学側からは田中昭男常務理事(教務部長)、諏訪文彦理事(学生部長)、覚道健治理事(病院長)も出席されました。

学术交流の内容としては、(1)学部学生および大学院生の教育・研究の交流(2)医学・歯学情報の交換(3)共同研究プロジェクトの推進(4)教職員の相互交流などとなっています。



両大学の関係者多数が出席して行われた締結式

物侵入を監視する免疫機能に重要な働きをしています。木梨研究室グループは、免疫細胞の動態を制御するRap1シグナル伝達機構を発見し、そのメカニズムを明らかにしてきましたが、その破綻が、多臓器の自己免疫病につながることを見出しました。本研究は、自己寛容における免疫動態制御シグナルが果たす機能と制御を明らかにして、新たな自己免疫発症機構を提示し、難治性自己免疫疾患との関連を明らかにすることを目指しています。



平成22年度 一般入試 試験会場は大阪アカデミア

平成22年度一般入学試験は既にお知らせのとおり、平成22年1月30日(土)大阪アカデミア(大阪市住之江区南港・コスモスクエア)で実施します。

昨年度までは、関西外国語大学中宮キャンパスで行っていましたが、本年度は新たに入試活動を強化することを主眼に試験会場を変更いたしました。

大阪アカデミアへのアクセスは、右図のとおり。(ニュートラム・中ふ頭駅又はポートタウン西駅から徒歩約10分)

大 学

知っていますか 二額の墨書

教養部学長室 「頤神妙術」 歴史資料室 「玉塵清談」

「知っていますか?二額の墨書」。本学発祥の地、牧野学舎には歴史を感じさせるものが一杯。講堂の天井画だけではありません。教養部学長室の「頤神妙術」と歴史資料室の「玉塵清談」なる額、墨書です。これを紹介しようと思ひ立ち、資料はないものかと探していたら由来書なるものが応接室に掲示されているではありませんか。そこで、今回「教養部探訪」という形で紙面紹介してみることにしました。

この由来書なるものを提案されたのが、前数学教室・有田清三郎教授、実際に解説を書かれたのが森井外吉名誉教授であることを知りました。2004年3月発刊の「関西医科大学教養部紀要 第24巻」に詳しく書かれています。再度、広く読者の方々に知ってもらうため、引用させていただきました。ご了承ください。

5~6年前までは、教養部講堂の正面向かって右に「頤神妙術」、左に「玉塵清談」が飾られていました。創立70周年を機に制定された建学の精神「慈仁心鏡」が掲額された平成16年1月17日までのことです。

由来書の作成は、牧野の入学式のこんな二人の会話から始まったそうです。

「大講堂の額の由来をご存知の先生方も次第に少なくなつたかもしれませんね。」

「先生、私、額の由来存じません。是非教えて下さい。」

「以前大講堂の横の部屋に簡単な説明書きがはってあったような気もするのですが、もうなくなっているかもしれませんね。説明書きといっても墨書の字が楷書でかいてあるくらいの簡単なものだったのですが、額の由来書があった方が良いでしょうね。」

「先生、是非、是非お願いできないでしょうか。」

以下は、森井先生の掲載文引用です。

天竜寺管長、我翁の揮毫

「頤神妙術」



45年前に私が初めて観賞した「頤神妙術」の額の書体は、私にとってはよくみなれた峨翁のものとはすぐ解った。峨翁は書家としても有名な禅僧で、この僧侶と京都市内で内科を開業していた私の叔父と親交があった関係で、峨翁の書体には私は若い時からよく接しており、私の大好きな書体である。それで私にとっては、この右の額はととても懐かしい、なんとも和らぐ印象を与えてくれる、大変好ましいもの

であって、毎年入学式参列時にこれを眺めるのを今でも楽しみにしている。(中略)

この額には「頤神妙術」「天龍精拙書」と墨書されており、「精拙」「峨翁」と2つの印鑑が左端に、さらに右上に遊印も押されている。「頤神妙術」は、碧巖録という臨済宗で重視されている佛書にみいだされる語句で、「できるだけ精妙な手段で自分の心神を養い育てよ」というような意味と私は勝手に理解し、人生のガイドの一つとしている。これを揮毫された関精拙師は、昭和年代の24年の長い間天龍寺管長として同寺の復興隆昌に尽力され、最後の1年間は臨済各派合同第3代管長になられたが、任半ばにして昭和20年10月に遷化された。世寿68才であったが、晩年は峨翁と呼ばれ、その書体は人の心をひきつける名筆で、それはこの領域の市場でも高く評価されている。

大覚寺派管長、乃村龍澄僧正の作



「玉塵清談」

「玉塵清談」は、91才の管長がふるわれた大変筆勢の強い能筆で、どんな老僧が書かれたものかなあと思っていたが、それ以上の詮索をまったくする気がなかった。この額には、「玉塵清談」「大覚寺門跡九十一翁龍澄題」と墨書されており、印鑑「龍澄僧正」などが2つ左に、遊印が右上に押されている。(中略)「玉塵清談」は「玉の塵のように降っている清らかな白雪をみながら、世俗を離れ名利を超越して、悟り得た心友同志と、趣味、芸術、学問などの高尚清烈な会話を交している」というような意味だそうで、書家の署名の末尾に「題」とあるのはこの語句は經典からのものでないということであった。とにかく真言宗に特別な関連・因縁はない語句のようで、その出典も特定できないということであった。(中略)

この語句を揮毫されたのは、当時真言宗大覚寺派管長であった91才の乃村龍澄僧正である。どんな人生を過ごした老僧だろう?どんな想いでこの語句を私達に与えてくれたのだろう?などと今後考究してみたい。

(平成15年9月末記述)

(「関西医科大学教養部紀要 第24巻」抜粋)

学 事

学長・教務部長らを囲んで記念撮影



第27回医学教育ワークショップ

医学生としての態度・人間性教育をテーマに 活発にグループ討議や意見交換

8月8日(土)大阪キャッスルホテルにおいて、第27回関西医科大学医学教育ワークショップを開催しました。今回の医学教育ワークショップは、「本学における参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)-Advanced OSCEと医学生としての態度・人間性教育-」をテーマに山下敏夫学長

をはじめ藺田精昭教務部長、タスクフォース10名を含めて約70名が参加、東京大学国際医学教育センター北村聖教授の「クリニカル・クラークシップにおける医師としてのプロフェッショナルイズム教育」と題した特別講演や、各グループに分かれて活発な討議や意見交換が行われました。今後、具体化できる提案を、実現に向け検討していく事になりました。

第35回実験動物慰霊祭 医学研究に感謝の念捧げる

第35回実験動物慰霊祭が10月14日(水)午後1時から専門部学舎2号館南棟遺伝子治療室において、山下敏夫学長、藤澤順一実験動物飼育共同施設長ら関係の教職員101名が参列のもと、無宗教形式で行われました。

1分間の黙祷の後、藤澤施設長から慰霊の辞(写真)が述べられました。引き続き、医学研究のため尊い犠牲となった動物の御霊に対し、参加者全員で献花を行い、感謝の念を捧げるとともに冥福を祈りました。



平成21年度 解剖体慰霊碑供養行われる

平成21年度の解剖体慰霊碑供養は、10月26日(月)午前11時から京都臨濟宗本山建仁寺塔頭正伝永源院内の本学解剖体慰霊碑前において、山下敏夫学長、平野利夫白菊会会長はじめ関係教授らが参列のもと、新仏の入魂ならびに供養の儀を行いました。

平成22年度前期大学院博士課程入学試験 合格者15名、論文博士語学試験は5名

平成22年度前期大学院博士課程入学試験は、9月5日(土)専門部学舎において午前9時30分から正午まで外国語試験、午後から専攻別授業科目試験を実施しました。受験者は17名、同時に行った論文博士語学試験には5名が受験しました。合格者は、大学院博士課程入学試験15名、論文博士語学試験5名でした。

後期試験は、平成22年2月20日(土)に実施、募集人員は35名です。願書受付は1月12日～2月10日。

慈仁会全国懇談会 今年も2回に分け

恒例の慈仁会全国懇談会は、10月18日(日)午前11時から、牧野キャンパスで1学年保護者89名、滝井キャンパスで2、4、5、6学年保護者204名が参加して開催されました。また、今年度は、3学年のみ別日程での開催となり、10月31日(土)午前11時から、滝井キャンパスに保護者52名が参加して開催されました。

両日とも、クラスアドバイザー教員とのクラス別懇談会、個別懇談会を中心に、滝井キャンパスでは図書館、10号館2階のチュートリアルルームの学内見学も行いました。18日は滝井キャンパスは午後5時すぎに、牧野キャンパスは午後5時半に、31日は午後3時すぎに無事終了しました。

学 事

オープンキャンパス
アンケート集計結果

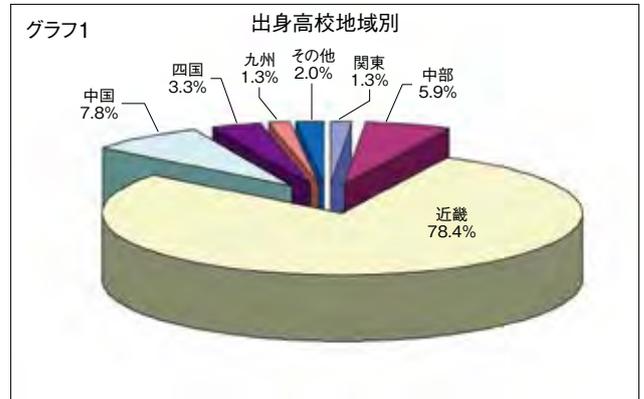
時期・日程は76%が「良かった」

よかったのは「入試概要説明」「施設見学」
「レクチャー」がベストスリー、開催時期・日程については、「良かった」が75.9%を占めました。これは、入試センターがまとめた平成21年度オープンキャンパス・アンケート集計結果です。

今年のオープンキャンパスは、7月25日(土)とお盆の8月15日(土)の2回、いずれも土曜日に開催。表のとおり参加者は、7月25日112名、8月15日205名で合わせて317名。アンケート回収率は全体で63.9%。後半のお盆開催には、前半の倍近くが訪れ、なかでも79家族107名の同伴者がありました。お盆休みを利用しての参加と思われる。

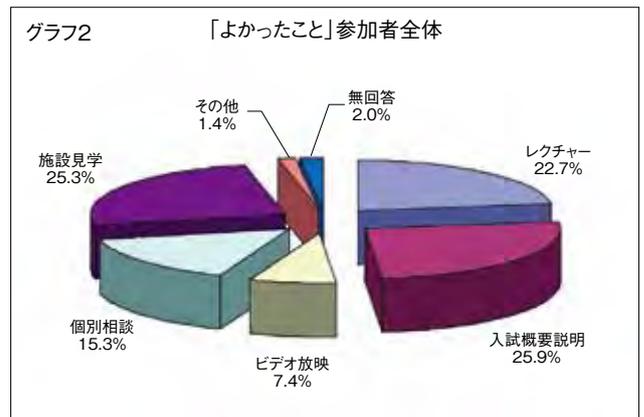
実施日	7月25日(土)	8月15日(土)	合計	
参加者	1年	2名	12名	14名
	2年	14名	26名	40名
	3年	33名	41名	74名
	既卒者	6名	19名	25名
	同伴者	57名 (50家族)	107名 (79家族)	164名 (129家族)
	合計	112名	205名	317名
回収率	77.3%(75/97)	56.2%(95/169)	63.9%(170/266)	

アンケートの配布数は、両日合計で266部、回収は170部。参加者の出身高校地域別(グラフ1)にみると当然のことながら近畿地区が120名(78.4%)と最も多く、その府県の内訳は、大阪64名、兵庫22名、京都19名、奈良12名、和歌山2名、滋賀1名となっています。次いで中国地区12名(7.8%)、中部地区9名(5.9%)、四国地区5名(3.3%)、九州地区及び関東地区が各2名となっています。



問1「今回のオープンキャンパスでよかったのはどれですか(複数回答可)」

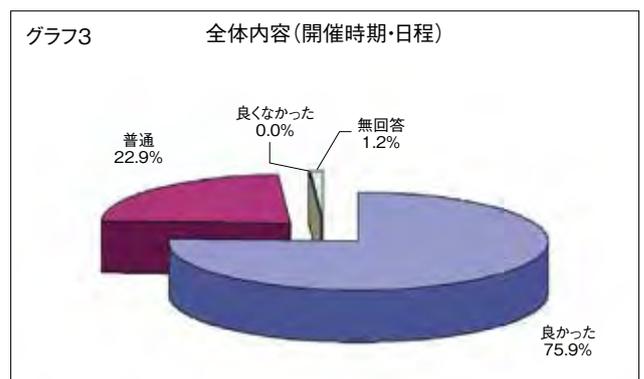
「レクチャー」「入試概要説明」「ビデオ放映」「個別相談」「施設見学」「その他」から選択。(グラフ2)



「入試概要説明」25.9%、「施設見学」25.3%、「レクチャー」22.7%の3つがいずれも2割を超えました。次いで「個別相談」15.3%、「ビデオ放映」7.4%。

「その他」の回答のなかには、「ドリンクサービス」が2件ありました。

問2「全体の内容や開催時期・日程についてお聞かせください」(グラフ3)



全体の内容では、「良かった」129名で75.9%、「普通」39名22.9%、「良くなかった」は0件でした。概ね満足していることがうかがえます。

開催時期と日程を個別に見ると開催時期では、「ちょうど良い」が91.8%、「もっと早く」5.9%、「もっと遅く」1.8%日程(午後から半日のプログラム)でも「ちょうど良い」が94.7%となっています。「もっと早く」とした少数意見には8月上旬が3名、7月ごろが2名。

日程(時間的なこと)は、「ちょうど良い」94.7%、「長い」2.4%、「無回答」2.9%。午後からの半日のプログラムが最適と思われます。「長い」として「2時間程度」という回答もありました。

問3「オープンキャンパスしてほしいこと」については、「大学の見学」「牧野キャンパスの見学」「在学生による講演」などがありました。

その他の意見として参加者から「土曜日は授業があるので日曜日が良い」「連続の2日間にしてほしい」「入試概要説明が詳しく良かった」などもありました。

病 院

附属枚方病院

3回目の大規模に災害訓練を実施

地域社会と連携もバッチリ

開院から3回目となる災害訓練が10月17日(土)午前10時から実施されました。今年の訓練は「地域社会と連携した訓練」をキャッチフレーズに、枚方寝屋川消防組合との合同訓練として、100名の消防隊員と14台の車両が出動しました。また訓練に合わせて枚方市赤十字奉仕団の皆さんによる炊き出し訓練も行われ、参加スタッフ、ボランティアを合わせると総勢400名以上の参加者となる大規模なものとなりました。

午前9時50分に研修棟及び周辺を爆発事故が発生した工場に見立て、救急隊による救出訓練がスタートし、救出から1次トリアージ、搬送の後、院内の災害訓練が開始されました。参加したスタッフは本番さながら真剣に取り組み、昨年以上に充実した訓練となりました。訓練後、枚方

寝屋川消防組合の窪田浩救急課長から講評があり、訓練全般にわたり高い評価をいただきました。



枚方寝屋川消防組合と合同で訓練

「健康ハートで働こう!」 テーマに市民公開講座

「健康ハートで働こう!」をテーマに、世界ハートの日(World Heart Day)の活動の一環として9月27日(日)午後1時から13階講堂において市民公開講座を開催、113名の市民でにぎわいました。

今村洋二病院長の挨拶の後、医療法人大寿会病院の篠山重威院長から「世界ハートの日とは」、健康科学・木村穰教授からは「汗を流して健康ハート」をテーマに講演、また健康科学センター・宮内拓史トレーナーによる体操の実技指導もありました。休憩を挟み午後2時過ぎから内科学第二講座・岩坂壽二教授の「メタボが襲う心臓病」、さらに大阪医科大学総合内科・浮村聡教授による「こんなに怖い～死の四重奏～」の講演がありました。別室では「栄養士による心臓にやさしい食事指導・相談」や循環器内科医師、看護師による「心臓病に関する健康相談」コーナーも設けられ、相談する市民が多く訪れました。

講演終了後には、「初秋の夕方、淀川の堤のウォーキング」と銘打って河川公園でストックを使ったノルディックウォーキングの講習会に35名の参加があり、健康ハートに関して理解を深められた1日でした。

*世界ハートの日(World Heart Day)=世界心臓連合(World Heart Federation)が2000年に提唱した地球規模の心血管病予防キャンペーンで、毎年9月の最終日曜日が該当します。日本心臓財団と日本循環器学会がこの連合に加盟しています。

(左)と岩坂教授
総合同会の篠山院長

附属2病院の対応

新型インフルエンザ 患者向けワクチン接種を開始

10月末から医療従事者向けの新型インフルエンザワクチン接種が始まり、附属滝井病院、附属枚方病院ともに優先順位を決め接種が完了しました。11月中旬からは患者向けのワクチンが開始されていますが、それぞれの病院で治療を受けている基礎疾患ありの患者が対象です。診療に関しては、附属滝井病院は小児科・呼吸器内科が当たり、附属枚方病院は小児科・総合診療科が窓口になっています。今後患者が増加すれば発熱外来を再開する可能性

もあり、行政との連携も保っています。重症患者は、救急やGICUなどで対応できるように陰圧部屋や人工呼吸器の準備を行っています。今のところ小児科に経過観察で入院された方が数人と、緊急手術で入院された方が、インフルエンザA陽性だったケースが2件あり、対応した医師・看護師はタミフルの予防内服をしました。ワクチンの接種と予防内服の2段階で、病院としての機能を低下させずに大流行に対応できるよう、万全の体制をとっています。

病 院

看護部主催の市民公開講座 インフルエンザの正しい知識を

10月24日(土)に13階講堂において、看護部主催の市民公開講座を開催いたしました。今年で2度目となる本会



看護師による実体験型学習

のテーマは「正しく予防しよう!インフルエンザ」で、今年、新型インフルエンザの世界的流行を発端に、インフルエンザの様々な情報が錯綜している現状にあります。そこで、身近な病院において正しい情報と日頃の疑問の解決を助け、市民の方々の健康な生活を応援したいと看護部全員一致の決定でした。

講堂では、医師、感染管理専任看護師、感染管理認定看護師、管理栄養士によるインフルエンザの正しい知識から、罹患中の食事の工夫まで幅広い内容の講義を行いました。また、実体験型学習スペースとして、マスクの正しい装着方法、正しい手洗いの方法などを看護師が手を取り説明するコーナーも好評をいただきました。昨年度に引き続き多くの皆さんにご参加いただき、有意義な時間を共有することができました。

ミニコンサート、しばし静穏なひと時

9月5日(土)午前11時から2階エントランスホールにおいてミニコンサートが開催されました。昨年に引き続きボランティアの高橋幸子さんのピアノ教室の生徒さんを中心に、小学4年生から大人を含め総勢10名の方々に演奏をしてもらいました。

病院内でのコンサートということもあり静かな曲目が中心でしたが、誰もが知っている「アヴェマリア」や「夏の思い出」などが流れ、病院内にしばし静穏なひと時が訪れました。



演奏するボランティアの方々

緩和ケア研修会、今後も年1回開催 医師、コ・メディカルら熱心に受講

9月19日(土)・20日(日)の両日、13階講堂で第1回関西医科大学方病院緩和ケア研修会が開催されました。主催責任者は今村洋二病院長、企画責任者は附属滝井病院外科吉田良助教、附属枚方病院外科柳本泰明助教が務めました。講師は合計9名で参加者は医師27名、コ・メディカル15名でした。

この研修会は、がん診療拠点病院の認定には必須事項であり、緩和ケア学会の示す「PEACEプロジェクト」に従った全モジュールで12時間以上、遅刻や途中退席は認めないという決まりがあるととても厳しい内容のものでした。

参加者は絶好の行楽日和となったシルバーウィークの土日にもかかわらず講堂に缶詰状態でしたが、熱心に受講され、最後に今村病院長から全員に修了証書を授与しました。

この研修会は今後も年1回実施の予定です。

厚生省、近畿厚生局、大阪府の 特定共同指導行われる

10月1日(木)、2日(金)の2日間、厚生労働省、近畿厚生局、大阪府による特定共同指導が実施されました。

これは関係法令に基づき保険診療の質的向上及び適

正化を図ることを目的に実施されたもので、1日目の午前中は各部門に分かれての院内巡視が行われ、午後からは事前に通知のあった患者カルテの診療内容について、各診療科の主治医と医事課担当者に指導監査されたのをはじめ、看護部門、事務部門に対しても指導監査が行われました。

2日目は、午後から13階講堂及び合同カンファレンスルームに関係職員を集め、厚生労働省・梅本医療指導監査官から“保険診療に関する集団指導”の後、講評が行われ、各項目で改善の指摘を受けました。

近畿厚生局、枚方保健所の立入検査

9月15日(火)午前10時から午後5時まで医療法第25条に基づく近畿厚生局、枚方保健所による立入検査が実施されました。

午前中は近畿厚生局により特定機能病院の要件事項及び安全管理体制の確保状況等について書類審査とヒアリング、午後からは枚方保健所も加わり各部門ごとによる院内巡視が行なわれました。

検査の結果については一部要望及び口頭による指導事項がありましたが、特に大きな問題はなく概ね良好であるとの評価を得ました。

病 院

附属滝井病院

地域連携の会 初会合、活発な質疑応答

病院長

登録医からの紹介患者症例報告など

高橋 伯夫

当院では、昨年末から今年初めにかけて、守口市および門真市医師会所属医師に呼びかけて登録医制度を発足し、登録医数は41名となりました。そこで、これらの登録医との病診連携を強化する目的で、10月22日(木)に守口ロイヤルパインズホテルにおいて、午後4時から同8時まで「地域連携の会」を開催しました。両医師会の会長を始めとして15名の登録医にご参加頂きました。

この会では、登録医から紹介を受けた患者さんの診断・治療経過を中心に診療科の宣伝を兼ねて循環内科、消肝内科、外科、整形外科、泌尿器科から症例報告し、活発な質疑応答がありました。院内からも42名の医師を始めとする関係者が集い、懇親会では、すべての診療科から登録医に向けて診療内容を紹介しました。懇親会では、すでに登録医ですので仲間同士という感覚から大変和気あいあいとした雰囲気、和やかなひと時となりました。今後

の滝井病院飛躍のきっかけになることを予感させる明るいイベントとなりました。

今後は、寝屋川市や大阪市旭区の医師会にもこの制度を広げていきたいと考えています。



登録医、院内の医師ら多数が参加した地域連携の会

フィリピンEPA看護師候補研修生が施設見学

海外技術者研修協会(AOTS)からの依頼で、フィリピンEPA看護師候補研修生28名が10月19日(月)当院を見学しました。日本の国家資格を取得するための準備活動



「いつか一緒に働きましょう」病院を見て感嘆

の一環として一定の要件を満たす施設・病院で就労し、国家資格の取得後には看護師・介護福祉士として継続して就労することが認められています。

見学は「日本の病院を訪問し、運営管理・設備・職場環境と働き方などについて概要を理解する」ことが目的。逐次通訳付きで早足に病院を案内、そして懇親会が行われました。始めて日本の病院を見て、熱心な質問と感嘆の声が相次ぎました。医療安全では5Rの確認が国が違って共通なこと、感染対策では母国での消毒液の携帯や手洗い施設の充実など短い時間で国際交流の輪が広がりました。2週間後には、各施設での研修が始まるとのこと。「1日も早く現場に慣れて、いつの日にか私たちと一緒に働きましょう」と励まし、送り出しました。(EPA=経済連携協定)

「せん妄」とは?医療安全講演会開催

10月29日(木)午後5時30分から病院6階講堂で医療安全講習会が開催されました。

第1部は「院内暴言・暴力に関する看護師対象アンケート結果」と題し、医療安全管理部の川副浩明課長による分析報告、第2部は、「せん妄について」をテーマに精神神経科学講座・杉本達哉助教(病棟医長)の講演がありました。

平成21年度病院立入検査

医療法に基づく平成21年度病院立入検査が9月30日(水)午後1時30分から同4時まで大阪府守口保健所職員により実施されました。医療法違反、その他法令違反、口頭指導にもありませんでした。しかし、「旧喫煙所で患者の喫煙が見うけられたので、今後とも敷地内禁煙の推進に努めてほしい」と依頼がありました。

精神科病院の实地指導

平成21年度精神科病院实地指導が10月16日(金)午後1時30分から同4時まで大阪府守口保健所職員により実施され、講評ではカルテの記載について指導や要望がありました。

特定病床の立入検査

平成21年度特定病床立入検査が10月21日(水)午後から行われ、大阪府の職員が救命・循環器・がん・難病の特定病床を医療法に基づき検査を実施しました。

各特定病床の遵守率について、(当該傷病名の患者以外を入院させず)遵守率100%に向け努力すること、特に遵守率の低い特定病床(難病)については、遵守率の向上に努めることとの指導がありました。

卒後臨床研修センター

平成22年度マッチング結果

平成22年春卒業予定の医学生と研修医受け入れ病院の両方の希望をコンピュータで突き合わせるマッチングの結果が10月29日(木)発表されました。本学のマッチング結果は、次のとおりです。

- ・ 附属枚方病院プログラム 定員36名
36名(本学出身者30名)

- ・ 附属枚方病院小児科重点プログラム 定員2名
2名(本学出身者1名)
- ・ 同産婦人科重点プログラム 定員2名
0名(本学出席者0名)
- ・ 附属滝井病院プログラム 定員8名
8名(本学出身者6名)

なお、産婦人科重点プログラムの定員については二次募集を行っています。

第2回臨床研修合同説明会を開催

平成22年度募集のため、附属枚方病院・附属滝井病院の説明会を合同で9月25日(金)午後5時からホテルモントレ ラ・スール大阪で2回目が開催されました。今回は第1回説明会(4月11日(土))と同様に学外で開催することになり、本学の初期臨床研修、臨床研修制度改定によるプログラムや募集定員の変更などについて説明を行いました。

本学の医学生42名(6学年21名、5学年21名)、学外から15名(6学年10名、5学年5名)、合計57名が参加、参加者は説明に熱心に聞き入っていました。山下敏夫学長、澤田敏副学長、今村洋二枚方病院長、高橋伯夫滝井病院長、松田公志シミュレーション教育推進委員会委員長、各診

療科指導医や現役研修医が出席して盛会裏に終了しました。



病院の研修内容を説明する研修生

来年度の研修協力型病院

新規に香里病院も認可される

平成22年度採用者から、魅力あるプログラムの一環として、内科研修と地域医療の研修を院外の研修病院で行うことができます。そのために厚生労働省に従来の協力型病院に、新たに本学の協力型病院として新規申請いたしました結果、9月24日付で指定病院として以下の病院(協力施設は除く)が認められました。

<新規の協力型病院>

大阪府済生会泉尾病院、城山病院、コープおおさか病院、松原徳洲会病院、大阪府済生会茨木病院、白庭病院、近畿中央胸部疾患センター、東大阪病院、京都九条病院、摂南総合病院、宝塚病院、福田総合病院、上山病院、佐藤病院、医誠会病院、香里病院

<従来の協力型病院>

附属枚方病院、附属滝井病院、男山病院、洛西ニュータウン病院、清心会山本病院、寝屋川サナトリウム、中野こども病院、大阪府済生会野江病院、小松病院、河内総合病院

附属看護専門学校

平成21年度 オープンキャンパスに3回で合計200名

平成21年度オープンキャンパスは、夏休み期間中の7月31日(木)・8月4日(火)・8月11日(火)の3回、本校第6教室及び講堂において開催されました。今年は、高校生168名、社会人30名、大学生2名の合計200名と保護者38名が訪れました。

オープンキャンパス当日は、午前10時から担当教員によるカリキュラムや学生生活、入学試験、本校の奨学金制度

等の概要説明に始まり、看護学校紹介DVD視聴、質疑応答などがあつた後、校内施設を見て回りました。また、希望者には午後から附属枚方病院の施設見学も行われ、3回で計56名の参加者がありました。

日程	参加人数	うち、枚方病院見学者	高3	高2	高1	社会人	大学生
7月31日(金)	38(6)	14(2)	22	3	0	12	1
8月4日(火)	63(11)	22(5)	46	9	3	5	0
8月11日(火)	99(21)	20(0)	80	5	0	13	1
計	200(38)	56(7)	148	17	3	30	2



概要説明に聞き入る参加者

大学情報センター

枚方地区でもパソコン講習会、無料でスキルアップを

大学情報センター学術部では、学生及び教職員を対象にして、毎年、定期的にパソコン講習会を開催しています。今年度からは、枚方病院医療情報部と共催で枚方地区でも講習会を開催し、現在開催中の後期からは、枚方地区も滝井地区同様に週2回になりました。まだ空きのある講習日もあります。無料で受講できるこの機会を活かしてスキルアップしませんか。皆さんの参加をお待ちしています。

滝井地区:Office 2007(Vistaパソコン)を中心とした講習会

枚方地区:Office 2003(XPパソコン)を中心とした講習会

講習会の日程、内容、申込み状況については、
「<http://www.tnoc.kmu.ac.jp/>」にアクセスして「パソコン講習会」をご覧ください。

平成21年度後期・パソコン講習会(枚方地区)

講習内容	開催日	曜日・時間	場所
Windows基本操作(1回)	10月13日～10月15日	火・木曜日 午後5時30分～7時40分 (休日による振替あり)	情報ライブラリー室 附属枚方病院1階
Word 2003(5回)	10月20日～11月19日		
Excel 2003(7回)	11月24日～1月21日		
スキャナ(1回)	1月26日～1月28日		
PowerPoint 2003(4回)	2月8日～3月4日		
ポスター作成(1回)	3月9日～3月11日		

平成21年度後期・パソコン講習会(滝井地区)

講習内容	開催日	曜日・時間	場所
Windows基本操作(1回)	10月14日～10月16日	水・金曜日 午後6時～8時30分	医学情報処理室 大学1号館 附属図書館内4階
Word 2007(5回)	10月21日～11月20日		
Excel 2007(6回)	10月25日～1月15日		
PowerPoint 2007(3回)	1月20日～2月12日		
スキャナ(1回)	2月17日～2月19日		
ポスター作成(1回)	2月24日～2月26日		
Photoshop CS1(3回)	3月3日～3月19日		
総合復習課題(1回)	3月24日～3月26日		

オフィス・職場から
世界中どこでも

活用しよう「Webミーティング」

画期的な簡単コミュニケーション・ツール

現在、大学情報センターでWebミーティングシステムを試験導入(～2010年3月)しています。Webミーティングとは、ネットワークに接続したパソコン同士でTV会議を行うことができるコミュニケーションツールです。Webカメラ、ヘッドセット(マイク付きヘッドフォン)があれば、自分のデスクから世界中どこでもインターネット上で会話できます。同時にPowerPointのプレゼンテーションや文書ファイルの配布も可能です。

Webミーティングは講演会のような大人数での利用には不向きですが、ファイル共有や書き込み機能を併用した小グループでのミーティングに適しています。初期設定と基本的な操作を覚えれば、どなたでもご利用できます。

早速、試してみてください。

なお現システムはWindows 2000/XP/Vistaでのみ利用できます。

学内Webミーティングポータルサイト:

<http://www.tnoc.kmu.ac.jp/uic-new/meeting/>



キャンパス ニュース

第61回西医体 ソフトテニス男子団体が優勝

昭和24年に始まり今年で61回を迎えた西日本医科学生総合体育大会(代表主管校:琉球大学)が8月1日(土)から8月12日(水)にかけて開催され、参加校44校、19競技で熱戦が繰り広げられました。本学からは3月に実施済みのスキーを含めた15競技に参加し、総合成績19位の成績を修めました。優秀成績は以下のとおりです。

西医体成績

種 目	個人氏名	順 位	
ソフトテニス	男子団体	—	1位
弓 道	男子個人戦	伊藤 弘将	5位
陸上競技	男子4×100mリレー	—	3位
	男子三段跳	江草 豪	3位
	女子総合	—	4位
	女子4×400mリレー	—	3位
	女子砲丸投	印藤 恵	2位
水 泳	男子200mバタフライ	久次米 佑樹	2位
	男子200m個人メドレー	愛甲 一樹	5位
	女子総合	—	2位
	女子200m自由形	桑名 香代子	2位
	女子400m自由形	桑名 香代子	2位
	女子50mバタフライ	金子 朋加	3位
	女子100m背泳ぎ	金子 朋加	4位
	女子50m平泳ぎ	仲井 えり	3位
	女子100m平泳ぎ	仲井 えり	3位
	女子200mリレー	—	3位
	女子400mリレー	—	3位
	女子200mメドレーリレー	—	2位

学 園 祭 中 止 と な っ て

学園祭実行委員長 小川 智永(4回生)



10月30日～11月1日にかけての学園祭は中止となりました。原因は巷で猛威を奮った新型インフルエンザです。今回のことに関して色々発見したことがあります。

中止、延期の線で、大学側と折り合いをつけ、また実行委員会で話し合い延期に向けて動き出したのですが、いざ幹部学年の4回生に延期を説明したところ、一部の方々から、反対意見が出てきました。部活等のやむなき理由を含め、反対の理由は様々ですが、率直に僕自身が、感じたところを申し上げますと、ほんとにみなさん個々の勝手な感じが見受けられたことです。これは一重に、みなさんの責任だと僕は思っています。まず、第一に僕自身が皆さんを先導する能力が足りなかったこと。4回生のカリキュラムが休みは少なくテストも多く、非常にハードであること。これらの理由で4回生の学園祭に対するモチベーションが非常に低下

しているの、個々の身勝手な意見が出て、学園祭をしたと思う人の意見は萎縮し、負の連鎖が生じたのだと思います。

しかし、残念なことだけではありません。学園祭の中止、延期の説明が終わったのちに、数人は僕の方に学園祭頑張ろうとか、応援のメールをくれました。心が粉碎されていた僕にとって、仲のいい友人やそうでない友人からの応援は、涙が出るくらい心から嬉しかったです。

友情というとても大切なものを再確認できたのも事実です。

これから、学園祭を延期していくために、実行委員会を含め学生みなさんが、「学園祭なんてもういいよ」ではなく、「学園祭成功して良かった」と思って頂くために、学生みなさんをもっと先導していかなければなりません。まだまだこれからです。大学生生活の学園祭という、皆さんの思い出を立派に作り上げるのが僕の責務だと思っています。

同窓会

関西医科大学同窓会研究助成各賞のご案内

関西医科大学同窓会には、学術・研究振興、教育・研修などを助成する研究助成制度が9賞あります。各賞についてご案内します。平成22年度の募集は、詳細が決まり次第、改めて通知します。

関西医科大学同窓会50周年記念研究助成「加多乃賞」

この研究助成は、同窓会が後進の研究者に対してさしのべる援助の一つとして、同窓会創立50周年を記念して創設されたものです。

賞金	6件以内	各50万円
----	------	-------

関西医科大学同窓会「佐々木千枝子(ささき ちえこ)賞」

本賞は、本学1回生の佐々木千枝子氏が学術振興に役立てたいとご寄付くださった基金による賞です。

賞金	1件	100万円
----	----	-------

関西医科大学同窓会「森本園子(もりもと そのこ)賞」

本賞は、本学12回生の森本園子氏が学術振興のため、または医療をもって社会に貢献している個人または団体に役立てたいとご寄付くださった基金による賞です。

森本賞	賞金	1件	100万円
医療功労賞	賞金	1件	100万円

関西医科大学同窓会「北西壽子(きたにし としこ)賞」

本賞は、本学15回生の北西壽子氏が学術研究振興のため、寄贈された基金による賞です。

賞金	2件以内	各100万円
----	------	--------

関西医科大学「櫻根啓子(さくらね ひろこ)賞」

本賞は、本学16回生の櫻根啓子氏が関西医科大学に寄贈された寄付金の一部を同窓会が委託され、関西医科大学の医学研究振興のため、優れた研究および重要な教育・研修を助成することを目的としています。

優秀な研究論文	賞金	1件	100万円
	科学研究費補助金を申請したものに限り		
国外学会発表	賞金	4件以内	各25万円
国外臨床実習	賞金	5件以内	各20万円

関西医科大学同窓会「藤原登美子(ふじわら とみこ)賞」

本賞は、本学7回生の藤原登美子氏が学術振興のため海外留学または海外出張に役立てたいと寄贈された基金による賞です。

海外留学助成	賞金	2件以内	各50万円
海外出張助成	賞金	4件以内	各25万円

関西医科大学同窓会「塩崎安子(しおざき やすこ)賞」

本賞は、本学19回生の塩崎安子氏が医学・看護学の教育・研究に従事している個人または団体を対象としてその業績に役立てたいと寄贈された基金による賞です。

賞金	2件以内	各50万円
----	------	-------

関西医科大学同窓会「和田喜代子(わだ きよこ)賞」

本賞は、本学14回生の和田喜代子氏が医学・医療・福祉振興のために役立てたいと寄贈された基金による賞です。

和田喜代子賞	賞金	1件	100万円
和田喜代子優秀業績賞(論文又は著書)	賞金	1件	100万円
和田喜代子奨励賞	賞金	2件以内	各100万円

関西医科大学同窓会「丹家雛子(たんけ ひなこ)賞」

本賞は、本学10回生の丹家雛子氏が医学・医療・福祉振興のために役立てたいと寄贈された基金による賞です。

丹家雛子賞	賞金	2件	各100万円
丹家雛子医療奨励賞	賞金	2件以内	各50万円
丹家雛子交付奨学金	賞金	2件以内	各50万円

同窓会ホームページ(<http://priv.kmu.ac.jp/dousou/>)には、各賞受賞者・交付規定・申込書が掲載されていますので参照ください。

メディア情報

教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。

(平成21年8月1日～11月4日)

木村 穰 教授 (教養部健康科学)	毎日放送 Voice 8月10日(月) 18:05～18:45	附属枚方病院で実施している牧場と連携した新しい小児肥満治療「キッズOB(肥満)プログラム」についての紹介がテレビ放映されました。
	朝日新聞 朝刊 9月4日(金)	本学と京阪電鉄が中心となり、沿線住民の健康づくりを進める「健康ステーション」構想が掲載されています。京阪の主要駅に健診所を設け、家庭や運動施設の間で住民の健康データを共有し生活習慣病の予防に役立てるといふもの。
	毎日新聞 朝刊 9月25日(金)	「くらしナビ 健康 Health」のページに附属枚方病院で小児の肥満を乗馬で解消する取り組みが紹介されました。小児科蓮井正史准教授による実施効果等の話も載っています。
	毎日放送 ちんぷいぷい 9月30日(水) 14:55～17:50	「どないなん?」コーナーで「乗馬で解消!子どもの肥満対策」と題して子どもの体験談と先生の解説が述べられています。
谷川 昇 准教授 (放射線科学講座)	毎日新聞 朝刊 9月2日(水)	骨折した背骨を「骨セメント」を注入し固定することによって痛みをとる経皮的椎体形成術に関してコメントを寄せています。
金子 一成 教授 (小児科学講座)	朝日新聞東京版 朝刊 9月26日(土)	「もっと知りたい!完全母乳に落とし穴」と題して特集。7月の日本小児体液研究会誌に教授の論文が掲載されたとの記事が掲載されました。
放射線科学講座	日経新聞 朝刊 10月6日(火)	動物実験施設運営者の民間会社と本学放射線科との産学連携により心筋梗塞モデルブタの開発に成功したことが掲載されました。
中邨 智之 教授 (薬理学講座)	読売新聞 朝刊 11月4日(水)	皮膚や動脈などのしなやかさを作るのに欠かせないタンパク質の働きを京都大学医学研究科・堀口真仁助教らとともに解明、米科学アカデミー紀要電子版に発表との記事が掲載されました。
私立100大学 財務ランキング	金融ビジネス 2009 AUTUMN No.260	大学特集・独自調査「100私立大財務ランキング」と題した記事に本学も掲載されています。

メディア情報をお待ちしています

教職員の方々がメディアに登場された場合に掲載させていただきます。このコーナーは、皆様からの情報提供によって構成されます。テレビ出演が予定されている時は、前もって下記の情報連絡先までお願いします。

なお、このメディア情報欄で紹介するのは、朝日、産経、日経、毎日、読売の5大紙およびNHK・毎日・朝日・関西・読売の各テレビ局、主要な月刊誌、週刊誌等に取り上げられたものに限らせていただきます。

情報連絡先

総務部広報課 電話 06-6993-9672(内線 2138)

e-mail kmuinfo@takii.kmu.ac.jp

同窓会

会 告

平成22年度

支部長会・評議員会・総会・懇親会

開催日:平成22年5月30日(第5日曜日)

場 所:守口ロイヤルパインズホテル

関西医科大学同窓会

TEL 06-6993-0121

FAX 06-6991-6221

平成22年 同窓会新年会ご案内

日時:平成22年1月24日(日) 正午～

場所:ラマダホテル大阪

担当:大阪支部

会費:15,000円

<新春講演>

演題 「究極の癒し オーロラ観賞」

講師 佐藤 ケンジ 環境写真家

<懇親会>

「シャンソンのひととき」 唄 井上 康子

(26回生)

ピアノ 西川 真氏

お知らせ

学生健康管理室からのお知らせ

インフルエンザの感染予防対策を

メキシコで発生した新型インフルエンザは、瞬く間に全世界に拡がり、現在本格的な流行状態にあるといわれています。本学も4月のインフルエンザBに続いて5月・10月の新型インフルエンザ対策で休講措置を余儀なくされました。今後、季節性インフルエンザ感染拡大を最少限にするためさらなる努力が各自に求められます。

感染対策で重要なことは、①感染源の除去②感染経路の遮断③感受性宿主への対応(個体の抵抗力の増強)の3原則です。大学においても「感染源を持ち込まない」「持ち出さない」「拡げない」ために、自分自身が感染者・伝播者にならないよう日頃からの健康管理が重要です。食事・休養(睡眠)・運動・保清といった日常生活・体調管理はもとより特に手指を介した感染、感染源を伝播している危険性があることを認識して実行することが大切です。

手洗いについては、2002年CDC(アメリカ防疫センター)がそれまで主流だったやり方(流水+石鹸による30~60秒間)から大転換(アルコールベースの速乾性手指消毒)の方針を出しました。これは、前者が評価されていても実際の現場では平均7~10秒間程度であり、短時間の手洗いでは効果についての科学的根拠が乏しい。このことから、一処置一手洗いといった頻繁に手洗いが必要な臨床では、手洗い設備が不要で、手の付着菌を短時間で確実に減少させる速乾性手指消毒の有効性が評価されました。だからといって手洗い(流水+石鹸)が否定された訳ではなく汚れや蛋白性物質等有機物を除去し消毒効果を高める等の必要性についても勧告しています。

“手洗いうがい・咳エチケット、しっかり守ることができていますか?”

手洗い 基本は【流水+石鹸で最低でも15秒間こまめに洗う】。咳・鼻水等症状がある時はアルコール入ウエットティッシュを携帯・利用しよう。

うがい 口腔内の乾燥を緩和し咽頭痛を軽減したり自浄作用を促して肺炎等他の感染症の予防のためにも大切。痰を出す際、口腔内を潤して潤滑油の役割をしてくれます。鼻洗浄も効果があると推奨されています。【洗口+含嗽】【鼻洗浄】

マスク 咳が出るときは、必ずマスクを着用。

学習環境の整備 時々窓を開け【換気】【加湿】(スプレーで水散布、水は毎日交換)

ワクチン接種 季節性インフルエンザワクチンは11月に医学生・院生に接種。新型インフルエンザワクチンは、現在医学生は接種対象にはなっていません。院生は、所属する附属病院の接種基準に基づきワクチン接種が実施(任意)されます。基礎疾患のある方は、必ず掛かりつけ医に相談してください。接種した場合は、学務課に報告をお願いします。

ホームページで閲覧できます

この広報誌は、関西医科大学と教職員、学生、同窓生、保護者を結ぶコミュニケーションツールの一つです。皆様からの記事の提供、企画、ご意見などありましたら、広報課までご連絡よろしくお願ひ致します。

なお、このほど本学ホームページに既刊の「関西医科大学 広報」をPDFファイルにて掲載しています。

送付先変更の場合、お知らせください

「関西医科大学 広報」の送付先の変更が生じた方は、お知らせください。官製はがき又は、ファックス等にて郵便番号・住所・氏名等を記入の上、お申し出ください。

編集後記

10月、11月と新型インフルエンザが猛威を振るっています。これから12月、寒さも本格化し季節性インフルエンザに加え、新型にも要注意です。本学でも例外ではありません。学年閉鎖や学生が楽しみにしていた行事が相次いで中止されました。大学祭しかり、看護学生の学校祭しかり。福利厚生事業のドッジボール大会もそうです。新種の病原菌が、次々人間社会を脅かします。感染症との闘いは永遠です。わが大学は、教育・研究・医療を追究する医科大学、社会への存在価値は、ますます高まることでしょう。

さて、今回の広報誌には「枚方キャンパス統合移転整備事業について」を施設整備企画室室長に執筆いただきました。正直、1面の写真を初めて見た時、「こんな建物ができるんだ」と感嘆しました。みなさんもイメージを膨らませてください。低炭素社会が叫ばれる中、時代にマッチした計画を取り入れていることが分かります。エコ&グリーン学舎をコンセプトに屋上庭園や、ソーラーパネルを設けるそうです。4年後が待ち遠しいですね。

「教養部探訪」として二額の墨書の特集しました。入学式の応援で教養部に行った時、目にして気にかかっていたものです。同じような疑問(由来は)を持った学生が当時いたとの話を森井名誉教授から先だってお聞きました。何に対しても興味を持つことは良い事です。(M.N)

関西医科大学広報 Vol.7

発行 学校法人 関西医科大学
編集 総務部 広報課

〒570-8506 大阪府守口市文園町10-15
Tel 06-6992-1001 (代表)
Fax 06-6993-5221

http://www.kmu.ac.jp/
E-mail kmuinfo@takii.kmu.ac.jp
平成21年11月26日(木)発行